

第2回読書会の記録

日時： 2025.6.25 水 9:15~10:20(1限)
場所： 育英大学・育英短期大学図書館
内容： ① 自己紹介と本の紹介 (1人5分以内)
② フリートーク (25分)
③ 今読んでいる本、これから読みたい本 (1人2分程度)
記録： Y 司書



【参加者&紹介された本】※紹介順

T 司書	『体の贈り物』レベッカ・ブラウン著；柴田元幸訳
Y 司書	『夜と霧』ヴィクトール・E・フランクル [著]；池田香代子訳
S 先生	『本屋で待つ』佐藤友則, 島田潤一郎著
S さん (短大・現コミ2年)	『うちにかえったガラゴ』島田ゆか作絵
H さん (短大・現コミ2年)	『このみちをゆこうよ』金子みすゞ著；矢崎節夫選

【紹介メモ】

(T 司書)『体の贈り物』レベッカ・ブラウン著；柴田元幸訳

著者はアメリカ人。ホームケアワーカーの女性と HIV 患者さんのお話。連作短編集。短編のタイトルが「○○の贈り物」となっている。患者さん一人ずつのお話。書かれた当時 (1994 年頃) は、HIV=死んでしまうという雰囲気があった。病気を取り扱った小説なので、悲しくなったり、暗くなる箇所もあるが、感情に訴えかける文体じゃないところが良い。主人公は淡々と仕事をこなしていく。家族とは違うが、患者さんと近い距離にいる仕事をしている。話の重みは、読者の読み取り方次第。限られた時間の中で何を大切にすることを考えさせられる。

≪フリートーク≫

表紙が小池アミイゴさん (前橋のフリッツ・アートセンターで 6/29 (日)までイラスト展開催中)。ひとつひとつのお話が、患者さんから受け取る贈り物。介助のシーンが生々しくないので、さらっと読める。体温とか感触が伝わってくるような描写。翻訳が良い。

(Y 司書)『夜と霧』ヴィクトール・E・フランクル [著]；池田香代子訳

著者は精神科医。アウシュヴィッツ強制収容所に収容された体験が綴られている。医師としての視点で、冷静に状況を観察している。重い話だと思って覚悟して読んでみたら、意外に大丈夫だった。残忍な行為も書かれている。極限状態で生き抜く術も学べる。しんどいときに笑うことを忘れない。夕焼けを見るなど。生きるか死ぬかの 2 択の場面もあって、ハラハラドキドキして読んだ。

≪フリートーク≫

AmazonPrime で映画「関心領域」を観て、購入したまま何年も読んでいなかったこの本を手にとった。映画は音で状況を想像させる表現がすごいのでおすすめ。この本はページ数が少ないのですぐに読める (170 ページ位)。

(S 先生)『本屋で待つ』佐藤友則, 島田潤一郎著

昨年の教員 Web 選書でリクエストした本。小説だと思って読んでみたら実話だった。佐藤友則さんが、父親が経営する実家の本屋さんを継ぐお話。大阪の大学に進学するも、遊んでばかりで単位が取れない。

町の勉強会に行って、大人の話をお聴きできるようになって人生が変わった。

父親の知り合いの本屋さんで丁稚奉公で修業し、見聞きしたことを自分の店で実践。働く環境が大事。引きこもりの高校生を受け入れて、ゆっくり働いてもらえるように短い時間からはじめて、社会に出ていけるようになった。

このような場（チャレンジの場）をつくることも本屋としての使命なのではないか。

美容室、エステ、パン屋等、複合店として営業。町の人に必要なサービスを提供していく。

《フリートーク》

実際の書店は、岡山駅から伯備線に乗る、福山市の奥。いちど行ってみたい。ツタヤのような店構え。独自に頑張ってる。引きこもりの支援をしている。年賀状のあて名書きもやっている。コインランドリーも併設。挿絵が写真ではなく絵（エッチング？）で面白い。

【Sさん】『うちにかえったガラゴ』島田ゆか作絵

島田ゆかさんは、今年デビュー30周年。

ガラゴは、暖かい季節はカバン売りをして、寒い季節は（冬眠？）家で過ごしている。

色々なキャラクターがおみやげを持って現れる。

カルタの札を見てお風呂のお湯が出しっぱなしだったことを思い出すシーンが面白い。

大人も子どもも、いくつになっても楽しめる作品。最後のページにバムケロの後ろ姿がある。

丸の内今年、30周年記念の絵本原画展(丸善・丸の内本店 7/17(木)~8/5(火))が開催されます。

《フリートーク》

T司書は、バムケロが好きだった。ラストの絵はファンにはたまらない。

ガラゴという動物が実際にいる。動物園で見られる。S先生とY司書は、実在の動物とは知らなかった。『かばんうりのガラゴ』という作品も面白い。

【Hさん】『このみちをゆこうよ』（金子みすゞ童謡集）金子みすゞ著；矢崎節夫選

3冊セットでボックス入りの詩集の中の1冊。編集者が「大漁」を読んで心を打たれ、金子みすゞの弟さんに会うことで作品集を作ることができた。

「大漁」→人間は魚がとれて喜んでいて、魚たちの家族は悲しんでいるだろう。

「月のひかり」→月視点。月から見た人間たちのすがたが描かれる。

目に見えないところを奥深く見ている。人間視線だけじゃなくて、花や月、太陽、空など、色々なものの視点で見ているところが好き。

《フリートーク》

「こだまでしょうか」が有名。CMになっていた。小学校の教科書にも載っていた。金子みすゞさんの詩は、知らないうちに色々なところで見ている。声に出して読みたくなる。「忙しい空」の詩を読んで、最近空を見ていないなあと気づいた。「世界中の王様」はリズムがいい。

3冊セットの本を並べると、絵が繋がっていてかわいい。Hさんは、中学生の時にお金をためて本屋さんで注文して購入した。特典のポストカードも入っている。

【これから読みたい本・今読んでいます】

T司書 『僕には鳥の言葉がわかる』鈴木俊貴 [著]

Y司書 『夜と霧の隅で』北杜夫著

S先生 『図書館がくれた宝物』ケイト・アルバス作；榎田理絵訳

『子どもと本の世界に生きて』E・コルウェル著；石井桃子訳

Sさん（短大・現コミ2年） 『ぼくの家族はみんな誰かを殺してる』

ベンジャミン・ステイーヴンソン著；富永和子訳

Hさん（短大・現コミ2年） 『花屋さんが言うことには』山本幸久 [著]

* ご参加いただいた皆様ありがとうございました。